

---

公開シンポジウム「海域学の展望を拓く一過去から現在、そして未来へ」

日時：2013年12月22日（日）14：00～17：30

場所：立教大学池袋キャンパス 11号館2階A203教室

---

**大橋**：ただいまより私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「21世紀海域学の創成」公開シンポジウム『海域学の展望を拓く一過去から現在、そして未来へ』を開催致します。それでは開会にあたりまして豊田由貴夫本学観光学部教授・アジア地域研究所副所長よりあいさつ申し上げます。

**豊田**：立教大学の豊田です。本日はお集まりいただきましてありがとうございます。あいさつということですが、私のあいさつに代えまして、立教大学収蔵の外邦図について簡単に紹介させていただきます。

外邦図は今回の戦略的研究基盤形成支援事業に申請するにいたったきっかけ、あるいは基礎となるものです。外邦図というのは、軍事的な目的で日本以外の周辺地域に対して作られた地図ですが、狭い意味では第二次世界大戦中にアジア太平洋地域に対して作られた地図ということになります。国内について作られた地図は内邦図と呼ばれるのに対して、海外のものは外邦図ということになります。実は、戦後にこの外邦図がアメリカに接収される前に、一部の人たちがこれらの散逸を恐れていくつかの大学に分散して渡したという経緯があります。立教大学にも3632枚の外邦図が配分されました。当時の立教大学に現在のアジア地域研究所の前身となるアジア地域総合研究施設が作られまして、ここでこの外邦図を預かりました。

しかし、立教大学では今まであまりこれを基にした体系的な研究というものになされませんでした。それから検索もできないような状況で、収蔵の環境も劣悪で十分活用されてきませんでした。しかし、数年前からほかの大学ではこの外邦図の整備ということが進んできて、どうも立教大学だけが取り残されるという状況になってきました。また、地図の劣化も問題視されるようになりまして、数年前からこの整備にとりかかったという次第です。私は地理の専門というわけではないのですが、このアジア地域研究所にかかわっていたということもありまして、少額ですが外部資金を得まして、外邦図の整備を始めたということです。

これらの外邦図は、当時の軍の方針を知る上でも重要ですが、それだけではなくて、歴史地理学的な意味、それから現在の地図と比較することによって様々な情報が得られるのではないかと考えております。

それで、これまでわれわれはリストを作りまして、それから最終的には立教オリジナルのものがいくつかあるということが分かりましたので、それをデジタル化しました。そして他の大学と照合作業を進めておりまして、今年度中には何とかリストを作成して発行できるようにしたいと思っております。今回、この外邦図の概略を紹介させていただきましたけれども、これともう1つ、今回の研究にあたって、東南アジアのかなり広範囲な文献がマイクロフィルムで入手できましたので、これを基にして海域研究というのを進めたいと思っております。今回のシンポジウムは2日間ですが、有意義な議論ができますようわれわれも祈っております。今までのご協力に感謝を示し、また今後のご協力をお願い致しまして、私のあいさつに代えさせていただきますと思います。どうもありがとうございます。